

## I 早稲田大学野球部監督小宮山悟氏が訪れる



令和2年12月13日(日)、小宮山監督が母校硬式野球部を訪れ部員達を指導するという貴重な機会に恵まれました。この日の様子を報告いたします。

## ＜実現の経緯＞

令和2年11月某日、母校硬式野球部OBであり現コーチ、そして早稲田大学野球部OBである高橋直樹氏が小宮山監督を表敬訪問（高橋コーチは早稲田大学野球部の現役部員であった時に、当時、特別コーチを務めた小宮山監督の指導を受けた縁がありました）。その際、高橋コーチが「母校硬式野球部と早稲田大学野球部が正しく繋がってほしい」「水戸一高もこれから生徒数が減っていくので、硬式野球部の部員確保も課題」と伝えたところ、小宮山監督が「少しでも力になれば」とその場で訪問を約束。実現に至りました。

## ＜当日の様子＞

この日は朝早くから報道陣が10社以上集まり、いつもと違う雰囲気がある母校のグラウンドに漂いました。そして、定刻に相当の余裕をもって小宮山監督が来校。母校硬式



野球部の部室で「WASEDA」のユニフォームに着替えグラウンドに足を踏

み入れました。まず向かったのが飛田穂洲先生の胸像です。深々とお辞儀をした小宮山監督の姿は大変印象的でした。

9時に練習開始。小宮山監督は母校硬式野球部の木村優介監督や高橋コーチとコミュニケーションを取りながら練習を見守ります。小宮山監督の動きが活発になったのは、投手陣がブルペンに入った時。投手の脇に立ち、投球に眼を凝らします。そして、良いボールが行った時には冗談を交えつつ褒め、さらに投手に応じて、変化球の投げ方、体の使い方など技術的なアドバイスをしてくれました。特に、エースの石井君には長い時間をかけ指導をいただきました。

練習の途中には、情報を聞きつけて集まった小中学生から質問を受けるサービス精神も発揮。集まった全ての小中学生が小宮山監督と話すことができ、大変貴重な経験になったことでしょう。また、その親御さんも非常に感激していました。

いよいよ練習も終了。部員達が小宮山監督を囲み、講話に耳を傾けます。現役時代に「ミスターコントロール」「精密機械」などと呼ばれた名投手らしく、守備に関するありがたい訓示をいくつもいただきました。さらに、その後の質疑の時間では、部員達から活発な質問が飛びます。小宮山

監督は、ひとつ一つの質問に対し、時にユーモアも交えつつ、的確に答えてくださいました。

この日は正午過ぎに終わる予定でしたが、質疑が活発だったことに加え、練習終了後、報道陣による小宮山監督、木村監督、高橋コーチ、堺堀主将などへのインタビューが行われたため、小宮山監督が着替えて母校を後にしたのは、結局、午後1時を大きく回っていました。

＜最後に＞

母校硬式野球部と早稲田大学野球部の縁を重く捉えていただき、貴重な時間を割いて水戸までお越しいただいた小宮山監督に対して感謝の言葉しかありません。OBとしても、このご縁を絶やさぬよう努めていきたいと改めて考える次第です。小宮山監督という選手としても指導者としても素晴

らしい方との接点を部員たちはどのように捉え、どのようにプラスの力に変えてくれるのでしょうか。部員ひとり一人の考えや行動に何らかの前向きな反応が起こることを期待しています。

船橋信正（水府倶楽部幹事長、三の丸倶楽部幹事）



## Ⅱ コーチ就任のご挨拶

### ◇◇ 高橋 直樹 ◇◇

昨年新チームからヘッドコーチを務めておりますH21年卒の高橋直樹です。

まず初めに、三の丸倶楽部の皆様におかれましては、現役時代に多大なるご支援並びにご声援を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

いつかはその御恩をお返ししたいと思っていた中、コーチという立場で再び水戸一高野球部に携わることになり、身の引き締まる思いです。野球の勝利は勿論のこと、その後の人生においても通用する人間力向上を一番の目的にサポートさせていただきます。

木村監督には私が高校生の時にコーチとして指導いただきました。高校卒業後、大学生、社会人になった後も頻繁に野球について議論し（チーム作りの方法や戦術、野球観について）いつしか一緒にグラウンドで戦っていくことが当たり前のような雰囲気となり今に至ります。木村監督と共有する「水戸一高野球部らしさ」を現役部員に正しく伝えていきたいと思っております。

高校野球からは10年以上離れておりましたが、

現チームの選手個々の能力の高さには驚きました。トレーニング理論や道具の発展もありますが、一番は選手の技術への探求心が強く、強豪との技術の差を少しでも埋めたいという向上心が感じられます。当時より今は全体練習の時間が短く、模試や定期テスト、学校行事に多くの時間が割かれグラウンドに全員が揃わない日も度々あります。効率化できる部分は可能な限り効率化し、効率化してはいけないものに関しては時間をかけて向き合うという、進学校が勝ち続けるためのモデルケースに水戸一高がなるようなチーム作りをしていければと思います。

また個人的に大事だと思っているのはOB、関係者の存在です。「学生野球の父」と呼ばれる飛田穂洲先生の教えを野球部員が知らずに卒業するようなことがあってはならないですし、各方面で活躍されているOBが数多くいらっしゃることを現役部員は卒業してから知ることになります。その時に、ただ「水戸一高で野球をして卒業した」ではなく、「水戸一高野球部の人間になって卒業した」とOBからしても誇らしく思えるような人材を輩出したいと思います。

今、現役部員は新型コロナウイルスの影響を受け、練習の時間制限や練習試合の中止など思うように過ごせない日々を送っております。その中でも選手は前を向き本気で野球と学業に取り組む姿は一OBとして誇りに思っています。僭越ながらコーチという立場で関わらせていただくにあたり、私自

身も本気で現役部員と向き合っていきます。三の丸倶楽部の皆様にはグラウンドに足をお運びいただき、選手に檄を飛ばしていただければ幸いです。皆様と喜びを分かち合えるように本気でグラウンドで鍛錬していきます。

### ◆◆清水 隆弘◆◆

昨年新チームからバッテリーコーチとして指導させて頂いております清水隆弘です。

大阪出身、山形県に越境し酒田南高校に進学し國學院大學、新日鉄かずさマジックでプレーをしておりました。ポジションは捕手で高校、大学、社会人とバッテリーを組んだ投手6名がプロ野球で活躍しております。

高橋ヘッドコーチとの出会いで木村監督をご紹介いただきお二人の母校に対する熱い気持ち、高校野球に対する想いに心動かされ今回コーチとしてチームに合流させて頂きました。伝統ある水戸一高のスタッフとして指導し甲子園を目指すことができる事に感謝致します。



私自身も5年前まで社会人野球の選手としてプレーをしておりましたが決してエリートではなく365日ずっと野球のことを考え牛歩のごとく歩んでまいりました。

言い方を変えれば野球の事しか考えられなかったのかもしれませんが。

しかし水戸一高の選手たちは文武両道でしっかりと勉強と野球の両立をしております。語弊があるかもしれませんがこんなにも野球に勉強に両立できていることに驚きがあったのと同時にこれなら戦えると感じました。そしてこのような選手たちが甲子園の大舞台で活躍することが学生野球のあるべき姿だと思っております。

15年前の高校野球と現在の高校野球は全く違うものになっています。道具の進化、テクノロジーの進化、選手のレベルアップ。常に変化に敏感でありながらも無くしてはいけないもの、進化をしないといけないことをしっかりと取捨選択し選手に対し成長できる環境を与えていければと思います。

野球は人柄がとても出るスポーツです。野球だけではなく「人として」「リーダーとして」「チームとして」成長できるよう2年半という短い時間を最大限にサポートし人生の基盤、軸となったと思ってもらえるように精進してまいります。

### 令和3年1月5日 日立一高との合同練習が行われました



前会報第25号発行（令和2年9月1日）以降の活動状況について時系列順に報告いたします。

（1）昨年8月の新チーム発足に伴い、清水隆弘氏と高橋直樹氏（平成21年卒）が新しくコーチに就任されましたのでご挨拶文を寄稿いただきました。

清水コーチは捕手として酒田南で甲子園出場し、國學院大學では主将を務め、都市対抗野球では新日鐵住金かずさマジックの初優勝に貢献されました。

高橋コーチは平成19年秋季県大会ベスト8進出時の外野手として、早稲田大学では副将として東京六大学ベストナインに選ばれる活躍をされました。

（2）新型コロナ感染問題により、父母の会皆様すら球場内での応援が制約されましたので場外から応援しました。秋季地区大会では銚田一に8-6で勝ち県大会へ出場できましたが、県大会では初戦でつくば秀英に5-10で敗れました。

10月下旬の神無月杯では緑岡と銚田二に勝ち準決勝まで進出しましたが、常磐大高に2-5で敗れ、三位決定戦でも水戸商に8-10で惜敗しました。

（3）野球部への支援として、令和2年度はコーチ謝礼60,000円（2名分）を会費から支出しました。2月末現在の会費残高は680,106円です。これは主に令和3年度の支援に充当いたします。

（4）令和2年度は新型コロナ感染問題で活動もいろいろと制約され、総会や幹事会は文書やオンライン開催、試合応援は場外からとなりましたが、会員の皆様のご協力で例年通りの活動ができました。改めてお礼申し上げます。なお、2月末時点での会員数は約180名です。

（5）令和3年3月1日付けで本会報第26号をお届けしました。

巻頭記事では小宮山早大監督の来訪の様子を船橋幹事から報告いたしました。シリーズ記事「大学野球を目指す後輩部員たちへ」には昨秋横浜国

立大学硬式野球部主将に就任された平成30年卒の内桶達史さんに寄稿いただきました。また、彼と同期で北海道大学の折橋桃子さんにも新しい目標へのチャレンジについて紹介いただきました。「新・異・先端分野で活躍する先輩たち」では、大阪大学博士課程で古代史を学ばれた平成23年卒の木村理さん（現奈良文化財研究所）に寄稿いただきました。

////////////////////////////////////

【運命の出会い】

それは今から15年前の平成18年3月に訪れた。私は出勤のため朝のJR大甕駅上りホームに立った。当日は県立高校合格発表の日であり、頭の中に「水戸一高で野球をやってくれる中学生が合格してくれないかな」との思いを抱いていた。

ホームには何人かの制服姿の中学生が列車を待っていた。その中で軽く体を動かしながら明るく友人と話す男子中学生に好感が持てたので思わず声をかけた。「今日は高校の合格発表の日だよね。どこへ行くの?」、「水戸一高です!」、「合格したら野球をやらない?」、「中学で野球をしていたのでぜひやりたいと思っています」。

彼はその後中山監督（現日立一監督）の指導の下で大きく成長し、入学直後の4月23日練習試合でセンター前へ初安打を、初の公式戦となった茨城大会の土浦日大戦では2安打を記録した。そして翌年の秋季県大会では準々決勝進出、早稲田大学では並みいる甲子園組のなかで副将として東京六大学ベストナインに選出されるまで成長した。応援に行った神宮球場のスコアボードに「高橋(水戸一)」と表示された瞬間の感動は今でも忘れられない。

その彼が後輩たちの指導に戻ってきてくれたのである。必ずや水戸一高が再び晴れ舞台を迎える時が来ると信じている。私の応援はまだまだ続く。



## IV シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

### 平成30年卒 内桶 達史

横浜国立大学硬式野球部3年の内桶達史です。

私は大学入学後、2年春に正捕手の座をつかみリーグ戦に出場する機会が増えていきました。昨秋関東大会を制した桐蔭横浜大学など、強豪との対戦の中で自分自身の成長や手応えを感じていましたが、納得できる結果を残すことができませんでした。この時、私に不足していたことは、本気度でした。一生懸命と本気は、同じことを表しているようで、少し異なります。本気で取り組む人や集団には、覚悟や自信があり、言葉の重みが違います。このことを肝に銘じて練習や試合に臨むようになり、技術的にも精神的にも大きく成長することができたと感じています。

現在では、主将としてチームを率いて本気で一人一人と向き合うことの大切さを実感しています。しかし、緊急事態宣言により2ヶ月以上チーム全体での活動ができていませんが、部員1人ずつと



「Zoom」を使用してコミュニケーションを取るなど試行錯誤を重ねています。

水戸一高の後輩の皆さんも、ぜひ本気で自分自身やチームと向き合ってください。私自身まだまだ未熟な選手ですが、日々頭も体も余力が無くなるほど、練習しなくては勝つことはできません。ぜひ、来たる春季大会や夏の大会で最高の成果を残されることを期待しています。

私は学生野球最後の1年を迎えています。己やチームと本気で向き合うことによって、最高の結果と、充実感を得られるように日々精進していきます。



### 平成30年卒 折橋 桃子

北海道大学2年の折橋桃子です。私は昨年まで北海道大学野球部のマネージャーとして選手と共に日々切磋琢磨してきましたが、今年1月から野球部を休部しています。

現在は、SDGs(※)達成に



に向けたビジネスモデルを提案する「HultPrize」と呼ばれる世界的なビジネスアイデアコンテストに参加中で、今春は世界各国からチームの集まる地域大会に出場します。コロナ禍においても、学生である今しかできないことを通じ、既存の思考や枠組みに囚われず、自らの選択肢と世界を拓いていきたいと考えています。このような活動を始めることに決めたのも、自主性を重んじ新たな取組みに寛容な北大野球部の環境で、目標達成のためにチームに必要なことや自分の強みを活かした役割を熟考してきた経験が大きく影響しています。

野球を通じての経験やご縁は、筆舌に尽くしがたいほどの感動と喜びに溢れた道へと私を導いてくれると共に、人生の糧となっています。竹内前監督のもと、馬場主将が創り上げたチームの一員であったことは、私が最も誇れることの一つです。

漠然とではありますが、将来は野球の魅力を伝

えたり、間接的にでも野球に関わる方々をサポートしたりする仕事や活動をしたと考えています。野球から離れ、新天地に足を踏み入れた今、水戸一高野球部から私が得たものは野球というフィールドではもちろん、さらに広い社会でより輝きを放つものだと身に染みて感じています。だからこそ、現役部員の皆様には水戸一高野球部での時間・空間・仲間を大切に、監督やチームメイトの持つ長所を最大限吸収しつつ自分にしかない良さに気づき、それを組織に還元する努力をしてほしいです。

末筆ではございますが、三の丸倶楽部の皆様には平素より水戸一高野球部に多大なご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。昨年、弟・秀哉率いるチームが夏季大会ベスト16の成績を収めることができたのも皆さまのおかげです。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

※SDGs:2015年9月の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

## V 「新・異・先端分野で活躍する先輩たち」

### 平成23年卒 木村 理

平成23年3月に水戸一高を卒業し、同年4月大阪大学に入学、博士課程を経て昨年4月より奈良文化財研究所にて勤務しています。



福岡県岩戸山古墳にて

大学では考古学を専攻し、特に日本の古墳時代について研究を深めてきました。現在は自分の研究を継続しつつ、日本古代史の舞台である飛鳥・藤原地域において宮都や寺院などの発掘調査、高松塚古墳やキトラ古墳の壁画保存の業務にも携わっています。

野球からは離れた今、野球に明け暮れた日々を直接思い出させるのは、一年に一度ほどみる監督に怒られる夢くらいになりましたが、一方で日々の仕事や研究に向かう時の姿勢において、それらの日々から得ていたものが多かったことに気づかれます。特に、当たり前前を当たり前にするという凡事徹底と、一つでもいいから誰にも負

けないスペシャリストを目指そうという思いは、野球でも考古学でもとりたてて能力のあるわけではない私を支える重要な要素となっています。そういった意味で、必ずしも楽ではなかった野球部時代は、今なお私の根幹をなしているといっても過言ではありません。

さて、話は変わりますが、関西に生活の拠点が移ってはや10年。昨年は叶いませんでしたが、毎年春夏の甲子園に高校野球を観に行くことにしています。そこで直接的に目の当たりにする全プレーや熱い思いは、自分自身の日常を顧みる非常に刺激的な場でもあるからです。昨年、そしてしばらくは甲子園を目指す球児の皆さんにとっては、苦難が続くことかと思えます。軽々しくは言えない、想像を越える苦しみや不安があったことでしょう。しかし、こうした苦しみをただ辛いものと捉えるのではなく、何かをつかむチャンスであると信じ切って日々の取り組みに臨むことができれば、今このような状況だからこそ得られるものがあると思います。

甲子園のグラウンドで現役選手の皆さんののはつらつとしたプレーが観られることを期待しています。



高松塚古墳:奈良県明日香村の藤原京期の古墳 1972年に極彩色の壁画が発見された

# VI 硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 木村 優介 顧問 竹内 達郎 太田 泰助  
ヘッドコーチ 高橋 直樹 バッテリーコーチ 清水 隆弘 コーチ 綿引 治朗

## 二年生 >>

主将



堺堀 史也  
鹿野中  
捕手・投手

副主将



石井 陽向  
日高中  
投手



栗林 修敬  
佐野中  
外野手



佐藤 航介  
田彦中  
外野手・内野手



田中 友暉  
茨城大附属中  
外野手



野々下 光  
那珂湊中  
内野手・投手



檜山 駿太  
結城中  
投手・内野手



岡部 知世  
茨城大附属中  
マネージャー

## 一年生 >>



秋田 啓人  
美野里中  
内野手



内田 慧登  
水戸四中  
外野手



河原井 龍樹  
水戸二中  
捕手・内野手



日下部 貴一  
東海中  
内野手



眞田 創  
那珂一中  
内野手



柴田 雄成  
美野里中  
内野手



高村 泰彰  
坂本中  
内野手



中村 颯一郎  
勝田三中  
外野手



中山 晃靖  
美野里中  
内野手



野口 喜生  
友部二中  
投手



杉山 菜乃華  
勝田一中  
マネージャー

## VII 試合結果・予定

令和2年度後半 公式戦・準公式戦・定期戦結果				
月	日(曜)	大会	球場	結果
8月	16日(日)	ジュニア大会2回戦	銚田二	○10-2銚田一(7回コールド)
	22日(土)	" 3回戦	"	○ 9-3銚田二
	23日(日)	" 4回戦	笠間市民	● 2-17水戸葵陵(5回コールド)
9月	14日(月)	秋季地区代表決定戦	ノブルホ-ムスタジアム水戸	○8-6銚田一
	21日(祝)	" 県大会1回戦	"	●5-10つくば秀英
10月	3日(土)	橋本・山野杯	水城高	●2-10水戸桜ノ牧(7回コールド)
	4日(日)	"	水戸桜ノ牧	●1-5緑岡
		"	"	○9-2古河-(7回終了)
	24日(土)	神無月杯2回戦	銚田二	○9-2緑岡(7回コールド)
	26日(月)	" 3回戦	"	○5-2銚田二
	28日(水)	" 準決勝	笠間市民	●2-5常磐大高
	30日(金)	" 3位決定戦	"	●8-10水戸商
11月	22日(日)	水商定期戦		中止
1月	2日(土)	水府倶楽部交流戦	水戸一	中止

令和2年度後半 練習試合結果				
月	日(曜)	球場	結果	
8月	26日(水)	作新学院	●6-14作新学院	
9月	5日(土)	栃木農	○9-3小山北桜	
			○4-3栃木農	
	6日(日)	下妻二	△ 5-5下妻二	
			○13-9 "	
	27日(日)	波崎柳川	○19-4東総工	
			○16-2波崎柳川(6回終了)	
			○ 3-1 " (4回終了)	
10月	11日(日)	太田一	○9-6太田一	
			●2-3 "	
11月	1日(日)	磐城	●2-10磐城	
			○8- 7相馬東	
	3日(祝)	裾野市民	●1-6都留	
			●2-9御殿場西	
	8日(日)	八千代松蔭	●5- 7八千代松蔭	
			●1-11 "	
	21日(土)	水戸農	●2-12水戸農	
			●5- 7 "	
	22日(日)	大洗運動公園	●1-3水戸商	
		●3-5 "		
23日(祝)	水戸葵陵	○17-8水戸農(5回終了)		
		● 0-1水戸葵陵		
29日(日)	勝田工	●4- 8勝田工		
		●5-11 "		

### 編集後記

木村理君(本会報6ページ)が奈良文化財研究所に勤めていることを知り、学生の頃を思い出した。京都とは違う奈良の鄙び、神社仏閣、仏像、歴史が好きで足繁く通ったのだ。その奈良では、現在、春の到来を告げる東大寺二月堂の「修二会(しゅにえ)」が行われている。「修二会」は僧11人が二月堂に参籠し、世上の罪汚れを懺悔し、平和や豊穡を祈る法要で、3月からいよいよ本行に入り、13日未明に佳境の「お水取り」が行われる。奈良時代から1270年もの間、一度も途絶えることなく続いている行事で、コロナ禍の今年も、僧たちのPCR検査、参拝者数の制限、生配信の実施など、さまざまな対策をとって行そのものは何も変えずに実施されているとのこと。長い伝統はコロナに負ける訳にはいかないのだ。そもそも東大寺の大仏は、飢饉や伝染病の流行を鎮めるために聖武天皇が作ることを命じたと言われる。そんな東大寺での僧の祈りであれば、神仙に届かないはずはない。この1年間、選手たちを見ていない。一日も早くコロナ禍が終息し、新監督・コーチのもとで一高野球部がどんなチームとなったかを見るのを楽しみにしている。(照沼)

令和3年前半 試合予定(令和3年2月18日現在)			
月	日(曜)	大会・試合・会場等	(V:相手高G, H:水戸一高G)
3月	13日(土)	湯本(V)・白河実業	
	14日(日)	牛久(V)・小山北桜	
	21日(日)	作新学院(V)	
	23日(火)	向上(V)	
	25日(木)	日立一(V)・水海道一	
	26日(金)	関東一(V)	
	30日(火)	國學院栃木(V)	
4月	31日(水)	栃木農(H)	
	4日(日)	日立北(V)	
	9日(金)	春季地区大会組合せ抽選会	
	12日(月)	地区大会(~14日)	
	18日(日)	勝田工(V)	
	19日(月)	春季県大会組合せ抽選会	
	23日(金)	春季県大会(~5月5日)	
	24日(土)	麻生(V)	
	29日(祝)	佐和(V)	
	5月	2日(日)	土浦一(V)・土浦二
3日(祝)		栃木翔南(V)	
4日(祝)		宇都宮(V)	
9日(日)		緑岡(V)	
15日(土)		春季関東大会(~23日山梨県)	
22日(土)		小山西(V)	
23日(日)		茨城・波崎柳川(H)	
28日(金)		水無月杯(~31日)	
30日(水)		八千代松蔭(V)	
6月		6日(日)	石橋(V)・高崎経済大附属
	12日(土)	磐城(V)・船橋芝山	
	13日(日)	A佐原(V)・B茨城東(V)	
	23日(水)	茨城大会組合せ抽選会	
	27日(日)	匠瑤(V)	
7月	4日(日)	伊勢崎工(V)	
	8日(木)	茨城大会(~26日)	

### 三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒元茨城県教育長)  
 会長：鬼澤邦夫 (S38年卒常陽銀行特別顧問  
 知道会会長)

事務局長：森利克 (S38年卒)

幹事：

照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母の会)

鹿島陽夫 (S63年卒)

船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)

飯田芳久 (H元年卒)

蒲原 博 (R元年度父母の会会長)

////////// 会員を募集しています //////////

◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外どなたでも入会できます。

◇特典：会員帽の配付(入会時)  
 会報(年2回)の送付  
 ホームページ「試合予定」、「試合結果」  
 詳細の閲覧など

◇年会費：一口 3,000円(何口でも可)

◇振込先：常陽銀行本店営業部  
 普通 2945619  
 サンノマルクラブ

◇手続き：氏名、住所、TEL番号、メールアドレスを下記までご連絡ください。

森利克

Tel/Fax: 0294-53-1351

E-mail: ihm2158@ak.wakwak.com